常磐毎日新聞
六月二日 夕刊
常磐毎日新聞社
常磐毎日印刷株式會社

自動車課税 歩合を協定
相當增額豫想

平市では來る四日午前十時から四倉、湯本、内郷好間、澤渡の二町三ケ町村を招き議事堂に自動車課税標準歩合協定會を開く

昨年の同税市税は三、七七四圓一二錢、縣税四一、二四〇圓九七錢であつたが、本年はガソリン統制に基き相當增額するものと豫想され自動車業者は脅威を感じて居る、尚昨年の乘用車は縣税附加税共で一臺に付き百圓位、トラックは同七十圓位であつたがこの協定會の歩合が協定されるもので各方面から非常に注目されてゐる

大集團統制の華
平市体操大會盛況

時局下に於ける大集團の統制ある訓練の實力を强くこゝに具現せる第一回平市体操大會は今二日の舊端午の節句高月臺上で盛會裡に行はれた午前九時宮城遙拜奏樂裡に國旗を掲揚參加人員六千餘名の外參觀人多數あり小學校兒童三千名の保健体操から始まり中空に描く潑溂美機械体操の妙技等大喝采を博した

僞辯護士
檢事局召喚

植田町大字植田字本町無職鈴木德與(三四)は今二日平檢事局に召喚され大脇檢事の取調べを受けてゐるが

同人は山田村相原米造氏と植田町字金畑赤坂原造氏の貸金問題の仲裁に入り謝禮を受け辯護士類似の營業をなしたこと發覺したもので〃法律事務取扱取締に關する法律違反〃で起訴される模樣である

溫床苗代
頗る好成績

石城地方に於ける農作狀況は既報の如く苗の發育頗る良好なため田植は來る七、八日頃から開始される模樣であるが山間部は新しい試みとして冷害防止の溫床苗代を實行しだところ豫想外に成績が良くこの分では田植も早く終了する筈で今年の收

◦◦◦◦◦磐女籠球部出陣 既報關東女子中等學校の制覇を目ざし猛練習を續けてゐた磐女籠球部はいよ〳〵明三日平發午後〇時四十九分鈴木正教諭に引卒され出發するが出場選手は左の如く第一回戰は東京府立第七高女と對戰する由

△四年—飯塚サト、高木絢子、小園井瑞美、志賀勝代、遠藤テルヱ、高田千代△三年—高野喜美子、花澤アヤ子

無免許運轉

市内才槌小路菊地自動車店方自動車運轉手秋葉藤吉(二三)は去る五月一日無免許で平—上小川間トラックを運轉今二日平區から自動車取締令違反で略式科料十圓に處された

傷害に罰金

小名濱町原田末吉(二五)は今二日平區から傷害罪で略式罰金二十圓に處された同人は去る四月十一日茨城縣那珂郡湊町字小川町地内で同僚の白井滿之助君と些細のことから口論の末杉薪を投げ付け頸部に全治三週間の傷害を負はせたもの

他人の山を賣る
惡ヴローカー檢擧

永戸村大字永井字下永井材木商藁谷要(四七)は二日朝平署に檢擧詐欺の識疑で取調べを受けてゐるが同人は材木ブローカーとして他人所有の山林を自己所有の如く裝ひ東京某問屋に賣却數百圓の詐欺を

社告

明後日から本紙倍版に復活致します

常磐毎日新聞社

働へたものらしく取調べの進展を注目されてゐる

春蠶が順調

本郡下に於ける春蠶は掃立以來好天に惠まれ頗る順調な成育は遂げ極めて良好であるが目下の四齡間近にせまつてをり桑葉の繁茂と相俟ち近年稀な豐作が豫想される

◦◦◦◦◦變態浪曲師の公判 既報學校歸へりの少女を言葉巧みに松林内に連れ込み暴行を加へた浪曲師双葉郡熊町村生れ浪江町權現堂字本城前原政雄(二七)に係る暴行事件の公判は來る七日午前九時から平支部で中谷裁判長係りで開廷される

銃後の護り

内郷村大字鬼ケ澤宮崎炭礦主山崎勝三氏は箕輪村高野の出征兵士高萩磨君の留守宅が手薄のため農耕に困つてゐるのを聞き公休日を利用從業員を手傳はしめ感激せしめた

◦◦◦◦◦奉仕待遇の校長 飯野專高校長坂内伊貞赤井第一校長高橋武雄の兩氏はこの程いづれも高等官八等を以て遇待れさた

ラヂオ JOHK

今晩の番組

▽後六、〇〇(子供の時間)木琴獨奏「山の牛乳屋さん」外 三上秀俊
▽後七、四〇 講演「航研機と學術研究」東京帝大航研所長工博和田小六
▽後八、〇〇 連續新講談「糸の亂れ」枥島狹衣
▽後八、三〇 地唄「笹の露」江良千代

明日の部

△前一〇、二〇 家庭講座「私の觀た歐米の臺所」醫博下田和八
▽前一一、〇〇 小學生の時間「寄三」對話朗讀「逃げたらくだ」東京府青山師範學校附屬小學校兒童
▽後三、一〇 教師の時間常識講座「我國最近の工業界」工博 加茂正雄
▽後六、〇〇(子供の時間)「科學の日本」電氣の普及大阪科學研究會
▽後六、二五 講演「戰爭と經濟」石山賢吉
▽後七、四〇(上海より)「支那より日本の皆樣へ」浦東南市支那小學校兒童
▽後八、〇〇 浪花節「乃木將軍信州墓詣」壽々木米若
▽後八、三〇 歌謠曲「最後の決戰」藤山一郎
▽後九、〇〇 時事解說、「時政權は何處へ行くか」陸軍少將 佐藤安之助

市場管見

久し振りに配當埋めをやつた新東株はソレ丈底强いと言へる譯だが今新甫發會も北中支の全面的關税引下げや又も敵機大陸爆等に人氣は引續良好を失はず一般に强調を呈してゐる。依て新東の日柄換を左に發表してみやう。

⊠一日 弱含み轉換日にして此の日の騰落天底を司ると雖も永續性なし、朝寄の逆行性にして朝寄高後場安となる可し。

⊠二日 波瀾日續進性あり、寄付後の順に從ひて利ある可し、朝寄後の動向に追隨すべし一方に偏する動き期待さる、されど皆総日弱保合となれば大下落の兆なり注意せらるべし

⊠三日 逆行味轉換變化日にして朝高寄後瞬間にして逆行を示す可し、後場大引前買つて後日に有利、此の日底打ちとなる事多き日なり

⊠四日 轉換注意日なり數日前からの續進足に逆行を示す轉換日にして多く天井を示す性能あり、當日の動き足に注意し高き時は賣下向ひに利あり。されど先落猶下げ足を示せば買である。

有價證券 賣物問屋 平市四丁目三十三番地 富岡事務所 電話 二五八番

白柄劍風連

大島多慶夫作 井川洗厓畫

……四三……

長兵衛旅立ち (四)

そして、

(あんなに勝手氣儘に市中をあばれ廻つてゐる旗本奴を强いと云ふのは、一體何う云ふ理由だらう)

と、口には出さないが、心のうちで考へてゐたのであつた。

長兵衛は愉快さうな顏をして背いた唐犬權兵衛を見て

『唐犬、お前さん御苦勞だが……俺の代りに喧嘩場に行つて見て與れないか。そして、どつちに理があらうが無からうがそんなことは構はないから、どん〳〵引揚げさせて與れまいか、頼む』

『宜うござんす、行つて參りませう、庵崎、靑鬼一緒に行かう』

と、權兵衛は叮嚀に元締に會釋をして庵崎の小平と、靑鬼の淸吉

を伴なつて去つて行く。

長兵衛はひそかに、身内のものにも徐ろに政治意識を植えつけてやらうと考へた。その意識が何百人の身内のものにはつきりと芽生えたときこそ、腐敗政治から、初めて江戸市民が目醒めて、眞の民衆を基礎とした公明な正直な政治が行はれるときが來るのであると、笑んで歩いて行く。

花川戸の家へ歸つて、長兵衛は女房のおきんに『[illegible]』へ燈明と御酒を上げさせた。そして、佛によつて禮拜をして自己高遂の理想を靜觀したのであつた。

女房のおきんが町小使が持つて來たと云ふ一通の書面を差出した。

と、その裏に几帳面な字で讀め『水野家用人』であつた。

長兵衛は直に二度ばかり面識のある用人の[illegible]兵衛から寄越したのだと思つた。

どんなことが認してあつたか、

それに旗本[illegible]があるらしいことは、[illegible]に依つて想像が出來た。

今日の[illegible]のことから、引つゞいて旗本[illegible]の首長は然る方首領の心持も[illegible]して、旗本奴と町奴の間に深い溝をつくらうとたくらんでゐる、ばかりではない、その首領同士さへも大衝突させやうとしてゐる、今、それが現實されると云ふことは、大事等の苦心も水の泡になすものであるし、江戸市中を兵火のうちに導かうとしてゐる諸國不平浪人の策動に便ならしみるものであるから、飽まで平和の協定をつゞけて行きたい、それにしては、首領の何れかゞ一時的にも江戸から旅立つて衝突を未然に防ぐのが何よりであると云ふ意味であつた。

(水野さんも矢ッ張り俺と同じことを考へてゐる)

と、長兵衛は思つた。

大事[illegible]とも約束があるから、こりや一時自分が浪速の旅へ出た方が好いやうに考へた、それにつけて唐犬と枝の二人に充分に申しふくめて、決して旗本奴とは喧嘩させないやうにしなくつては可けないと悠々考へた。

權兵衛が花川戸へ歸つて來たのは、暮色の帷が大川を掠めて金龍山の鐘の音を包む夕刻であつた。

『元締、只今歸りました、何うやら穩うやら大事にせずに引揚げさせましてござります』

と、權兵衛は苦々しさうに元締の顏を見乍ら報告した。

『いや、御苦勞だつた、別に怪我人はなかつたかな』

『双方に四五人は輕い怪我人があつたやうで。俺から元締の仰有つたやうに命令に云つてやりました』

不滅のシンボル

（第十回より續く）

大井廣介

…第二十九回…

新しき嫉妬 (1)

飯で、早百合子から聞いたことを思ひ出して、杳二は独りさう言つて見た。

『え、知つてるます……さう、内會だから知れません。私は知かなかつたけど……』

投げ遣りに、女は答へる。

杳二のふと見た横顔の鼻が新しく感じた。自分とは殆んでも一緒に散歩したこともなかつた女が、男とは自然発的で歩いてゐたことを思ふと、漠然と新しい嫉妬に襲はれないではゐなかつた。

『眼鏡はやつぱりずつと東京の方がかね？　暫らくしてから杳二は言ふのであつた。

十分間ばかりと炭火の熱を浴びせやうと思ひながら、饒舌ばかり弄立てゐた方がなかつた。

『日の經つに連れもんだから、一緒に來たんだわ』

饒舌は案外ない返事をした。

『ほう、君のスは此の近所かい？』

遠慮でと思つて、杳二は嫉妬心を恐れながら訊いて見た。

『そうなんです』

『いつ頃此地へ來たんだ？』

『三日目』

『不思議もんだね。一つ家に住つてゐて、今までちつとも知らなかつた』

『……』

『どうだい、子供は出來たかね？……』

『そんなものはありません』

『ほう』

『必要もないね』

『はゝゝゝ』

と、杳二は淋しく笑つて、

『君の言ひさうなことだね。そんな所は樹ちすちやないか。醜い男には苦しいのかな』

『……』

饒舌はまた黙つた儘だつた。

『こんなことちや駄目だ』

杳二は心に叫んだ。

『あれほど口く〳〵彼女を思つた自分ではないか―それなのに―現在自分が會してゐながら……』

杳二は我れと我が心を叱咤するやうに、強ひて心に叫んだ。

『駄目だ！　また敗けた。こんな所へ來てまで敗けてゐる』

どうしても彼女を軽蔑し得ない自分を、みじめな自分の姿をそこにはつきり見て、たゞ無性に苛々した。

『何うしてやらう！』

心に呟つて見ても、さてどうすることも出來ない彼であつた。

早百合子から突然な手紙に誘された杳二は、突然會を切上げて、家へ歸つて行つたのは、その翌日のことであつた。

昨つて歩いた饒舌が、家には彼を待つてゐたのである。

翌て、杳二の友人の情田から申込まれてゐる結婚話が、急々切迫して來て、家族に勧められる儘まで持ち込んだ。といふ早百合子の手紙には、杳二に少からず驚かされたが、それよりも驚いたことは、現在早百合子に二號の座敷を借りて同居してゐるたきといふ大家の女が、ある秘密関係されたといふ報告であつた。

視力保全運動

視力異狀に早期檢眼
明快な、視力能率増
進、正確な眼鏡によ
り視力を保全致しま
せう。

各眼科御用

眼鏡専門　玉屋眼鏡店
平市二丁目

病室増築、手術室完備
學醫博士
産婦人科　五十嵐雄二
平市新川町　電話三六九番

魚清自慢の
特製　みつ豆　始めました
出前も迅速に致します
平二番寮裏通り
魚清食堂
電話六三三

し出賣念記年週一制市平祝
期間……來ル6月3日ヨリ5日マデ3日間
一、我等の公會堂建設献金として
二、出征軍人慰問金
◎賣出期間中御買上高の一部をお客様の御芳名記入の上献納致します
◇當藥局獨得のサービス…金壹円以上御買上の方に（但し化粧品は貳圓以上）
御家庭向實用品福袋　進呈
◇オタノシミとして……福袋のうち幸運者は、東寶映畫聚樂館御招待券が當ります
◇戰地慰問の結合藥ありますキハツ油（小壹）いたします
愛市報國
平市古銀治町一〇番地【電話四四番】
阿康藥局
藥劑師　阿部康雄
◇衛生相談に應じます

三井タクシー
平二　電話六八五番

食洋と酒良
位本濟經

レストラン　平圃舘
電624

高久病院
院長　醫學士　高久忠
副院長　新潟醫學士　赤羽清
藥局長　藥劑師　佐竹菊雄
平市田町　電話五一三番
内科小兒科　外科
耳鼻咽喉科　外科花柳病科
◎看護婦至急募集——

一齒科一般　保存科補綴科　鐵鑄架工科
齒列矯正科　小兒齒科　齒槽膿漏科
一口腔外科　一レントゲン科
中野齒科醫院
平市田町（松月堂向と）
電話五〇九番
院長　日本齒科醫學士　中野惠次
日本齒科醫學士　西川誠

◎◎◎
氷は！魚清
電話四六七番へ
本店　平二丁目警察通り　魚清氷卸部
支店　江名町築港内　江名販賣店
電話六九番

喜多流謠曲と仕舞の
お稽古をお奨め致します
入會隨時　平市田町六九
喜多流　謠曲仕舞　白土會
電話二一七番

内科
外科　一般
金成醫院
金成忠義
平市錦田町電話三五八番

小瀧の新緑
一日の清遊には……
どうぞ小瀧鑛泉へ！
西洋いちごが出盛つてゐます。
猿の子が生れました
とても可愛いです。
鐵道指定旅館
割烹　小瀧鑛泉
電話小名濱一〇三番